

平成29年度 磐田市立岩田小学校 学校評価書

*「A=かなり当てはまる B=まあ当てはまる C=あまり当てはまらない D=ほとんど当てはまらない」として各自が評価

| 重点 | 目標・取組 | 評価指標(教師側の表現) | 自己評価 | A+Bの% | 考察・改善策 | 学校関係者評価委員から | 備考 |
|----------------------|---|---|------------------------------------|-------|---|---|-----------|
| 一人一人に寄り添った授業、教育活動の実践 | <p>進んで学び合う子</p> <p>「授業の内容が分かる」95% 「分からないことをそのままにしない」90%</p> <p>○主体的・共同的な学びの実践</p> | 1 子どもは、授業の内容がよく分かっている。 | 児童 96 教員 100 保護者 91 | | <p>○今年度は、主体的・対話的で深い学びの視点で授業を見直し、どの子にも「わかる」「楽しい」授業を目指して授業改善に取り組んだ。また、書画カメラ、大型モニター、タブレットなどのICT機器を授業改善の有効な手立てとなるように積極的に活用した。その結果、「授業の内容が分かる、楽しい」と答えた子どもの割合は高かった。しかし、保護者の評価が低い「分からないことをそのままにしない」においては、分からないことを素直に言える学級づくりや最後まであきらめずに課題解決をしていく姿勢を育てていくことが必要である。また、「自信をもって思いを発言する」においても、子どもたちに受身的でなく主体的に学ぶ力を習得させるために、子どもたちがどのように学ぶのか、何が身に付いたのかを教師が見取っていかなければならない。</p> <p>○新学習指導要領に向けて、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す授業改善が必要である。今年度取り組んできたICT機器の効果的な活用を継続したり、児童の聴く力を付けるためのコミュニケーション・トレーニングを取り入れたりして、さらに授業改善を進めたい。</p> <p>○読書については、保護者の評価が低い。まず必読図書を完読できるよう各学年で指導する。また、新しく入った本の紹介や読書郵便、パズルなど、読書に親しむための委員会活動を支援していく。家庭とも連携をとり、本好きな子を育てるための方策を共に考えていきたい。</p> | ○来年度道徳が教科化して「考え、議論する道徳」となり、対話を重視するのは良いことだと思う。自分の考えを発信したり、多様な意見を戦わせたりするのは大切なことである。 | 磐田市 共通 |
| | | 2 子どもは、授業が楽しいと思っている。 | 児童 93 教員 100 保護者 93 | | | ○読書についての保護者の評価が低い。今は本以外のものに関心を奪われることが多い。読書を宿題として出すのも良いのではないか。 | |
| | | 3 子どもは、分からないことをそのままにしないで、教師に聞いたり、自分で調べたりして解決している。 | 児童 85 教員 100 保護者 68 | | | ○来年度実施する音楽鑑賞などで、子どもたちに本物を見せるのは良いことだ。心を育てることにつながる。 | |
| | | 4 子どもは、自信をもって思いを発言している。 | 児童 84 教員 85 保護者 73 | | | | |
| | | 5 自分は、個に応じた細かな支援・指導をしている。 | 児童 95 教員 75 保護者 92 | | | | |
| | | 6 自分は、授業をわかりやすくするために、工夫・研究している。 | 児童 98 教員 100 保護者 97 | | | | |
| | | 7 子どもは、「家庭学習の手引き」にそって、家での勉強をしっかりと行っている。 | 児童 91 教員 75 保護者 81 | | | | |
| | | 8 子どもは、外国語活動の授業が楽しいと思っている。 | 児童 94 教員 100 保護者 90 | | | | |
| | | 9 子どもは、本を読む習慣が身に付いている。 | 児童 76 教員 71 保護者 57 | | | | |
| 一人一人に寄り添った授業、教育活動の実践 | <p>進んで力を合わせる子</p> <p>「自分の良さを3つ言える」70% 「友達の良い行いに気付き、自分もやろうとする」80%</p> <p>○自他の良さを認め、共に高め合う人間関係の構築</p> | 10 子どもは、学校に楽しく通っている。 | 児童 91 教員 100 保護者 97 | | <p>○「進んで力を合わせる子」の項目については、児童、保護者ともにより評価であった。縦割り活動の「岩っ子の時間」では、様々な活動を行うだけでなく、振り返りの時間を設けて、互いの良さを認め合うことができるようにした。これは来年度も継続していきたい。</p> <p>○今年度行った「心のアンケート」、岩っ子輝き賞(放送で校長から紹介)、児童全員が会礼で発表するスピーチを継続し、自己肯定感の高揚をさらに図っていく。</p> <p>○「学校が楽しい」「学級や学校にはルールを守り、協力する雰囲気がある」についての評価も高いことから、学級の温かな土壌づくりができ、児童は安心して学校生活を送っていると考えられる。互いのよさや違いを認め、誰もが気持ちよく生活できるために、今後も全職員が全児童の担任であることを意識していきたい。</p> | ○地域で気付いた子どもたちのいじめについて学校へ伝えたところ、その後仲良く帰っていく姿を見て、指導をしっかりとってくれたということがわかった。 | 磐田市 共通 |
| | | 11 学級や学校には、お互いにルールを守り、協力する雰囲気がある。 | 児童 92 教員 85 保護者 95 | | | ○学校で会ったときは大きな声であいさつできる子どもが多いが、朝の登校時にはやや元気がないと感じる。あいさつは家庭教育の基本だと思う。 | 磐田市 共通 |
| | | 12 子どもには、学校に相談できる人がいる。 | 児童 87 教員 71 保護者 88 | | | ○「ありがとうの会」では、子どもたちの表情が今まで以上に良くなった。自信をもてていると感じる。 | 磐田市 共通 |
| | | 13 自分は、子どものことをわかって指導している。 | 児童 93 教員 100 保護者 93 | | | | |
| | | 14 子どもは、自分の良さを3つ以上言える。 | 児童 83 教員 85 保護者 82 | | | | |
| | | 15 子どもは、学校や家、地域で進んであいさつをしている。 | 児童 93 教員 42 保護者 86 | | | | |

| | | | | | | | | |
|----------|--|----|---|-------------------------|-----|--|-----------|-----------|
| | | 16 | 子どもは、友達の良さが分かって、自分もまねしようとしている。 | 児童 85 保護者 85 | 93 | | | |
| 進んで運動する子 | 「体を動かすことが楽しい」90% 「自分に合った目標を立て、運動に取り組めた」90% ○体を動かすことを楽しむ経験の増加 | 17 | 子どもは、自分に合った目標を立てて、運動に取り組もうとしている。 | 児童 85 保護者 81 | 94 | ○「進んで運動する子」の項目については、児童、保護者ともに良い評価であった。今年度は外遊びの奨励や学級遊びの設定を通して、外で楽しく体を動かす機会を増やしてきた。運動会の一輪車演技、持久走記録会、縄跳び大会などに向けての取組では、児童が声を掛け合って主体的に練習したり、目標に向かって協力し合ったりする姿が多く見られた。体力アップコンテストのドッジボールラリーや一輪車に年間を通して取り組み、心も体も健やかな子の育成に取り組んでいく。 | | |
| | | 18 | 子どもは、運動が好きである。 | 児童 100 保護者 92 | 91 | | | |
| | | 19 | 子どもは規則正しい生活を心掛けている。 | 児童 100 保護者 86 | 92 | | | |
| | | 20 | 学校は、子どもの健康のための取組を行っている。 | 児童 100 保護者 99 | 99 | | | |
| | | 21 | 子どもは、自分の将来に対して夢や希望をもっている。 | 児童 85 保護者 91 | 90 | | | |
| 開かれた学校 | ○信頼にこたえる ・向陽学府小中一貫教育 ・コミュニティ・スクール(地域と目標・育ちを共有) | 22 | 子どもは「自信をもち、進んでチャレンジする子」はどんな子か知っている。 | 児童 100 保護者 90 | 89 | ○「住んでいる地域の歴史や自然への関心」については、保護者の評価が低い。社会科、生活科、総合的な学習の時間において、地域の歴史や自然についての題材は豊富に扱っている。学習の様子を学年便り、学校便りなどで発信し、この地域の良さを価値付けていきたい。 ○今年度も地域の方々の支援、協力により、児童は様々な体験活動に取り組んだ。保護者からは、本校の安心感がある校風や温かな見守りがある土壌についての好意見が寄せられ、コミュニティ・スクールを推進していることでの成果が感じられる。今後も学校の応援団として、子どもたちを支えていただけるように、地域と学校がWin-Winの関係でいられるようにしたい。 ○向陽学府小中一貫教育では、今年度、どの学年でも三小での交流活動を行い、子どもたちの交流の輪が広がった。また、体育、音楽、外国語の授業に、中学校教師が入って授業を行うことで、教師と子ども、教師同士のつながりができ、小中の接続が図られた。 | | |
| | | 23 | 子どもは、家で学校や教師の話をよくしている。 | 児童 100 保護者 80 | 81 | | | |
| | | 24 | 子どもは、今住んでいる地域の歴史や自然について関心がある。 | 児童 71 保護者 63 | 82 | | | |
| | | 25 | 学校は、自慢づくり「岩つ子活動の充実」「一輪車への挑戦」「様々な交流学習」を中心に、特色ある教育活動を行っている。 | 児童 100 保護者 100 | 100 | | | |
| | | 26 | 学校は保護者や地域の人に授業や行事等学校の様子を参観する機会を設けている。 | 児童 100 保護者 100 | 98 | | | |
| | | 27 | 学校は、子どもや諸活動のことについて、気軽に相談できる雰囲気にある。 | 児童 98 保護者 98 | 98 | | | |
| | | 28 | 子どもは、「自信をもって、進んでチャレンジする子」へと育ってきている。 | 児童 95 保護者 95 | 95 | | | |
| | | | | | | ○野菜作りを子どもたちに教えているが、動物に食べられてしまった野菜をそのままにしておいて、100%収穫できるわけではないことを子どもたちに教えることも大事だ。 ○音楽鑑賞会や運動会などの行事には、地域の人たちにも声を掛けてほしい。交流センターだよりに掲載して地域に広め、一緒に参加できると良い。 | 磐田市 共通 | 磐田市 共通 |